様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ５ 月 ２２ 日現在

機関番号：１１３０１
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｋ１２７８１

研究課題名（和文）戦間期ソ連社会の軍事化に関する基礎的研究

研究課題名（英文）Fundamental Study on the Militarization of Soviet Soceity in the Interwar Period

研究代表者
寺山　恭輔（TERAYAMA, KYOSUKE）

東北大学・東北アジア研究センター・教授

研究者番号：００２８４５６３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,400,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は、国際環境の悪化する1930年代のソ連で、老若男女を問わない国家総動員体制の中核の役割を担い、国民に軍事的知識の啓蒙、教育を行ったオソアヴィアヒムの誕生から独ソ戦争開始までの時期に焦点をあて、総括的な論文の作成を目指している。ソ連時代に執筆された学位論文を含む研究及びソ連崩壊後の公文書館史料に基づいた研究をリストアップし、これまでの研究を総括した。それと同時に文書館における史料収集を進め、ロシア国立社会政治史史料館で政治局文書の収集をかなり進め、ロシア国立連邦史料館のオソアヴィアヒム・フォンド（8355番）から、 参照すべきファイルを整理することができた。

研究成果の概要（英文）：　This study focuses on the crucial role of Soviet militarized organization “OSOAVIAKhIM” that had been used by the Stalinist leadership to mobilize all nation including elders, children and women by inculcating them militaristic knowledge during the interwar period when international situation for the Soviet Union has been seriously deteriorated. In order to write a fundamental article on this organization I have tried to collect and analyze various books, articles, candidate and doctoral dissertations defensed during the Soviet and post-Soviet era, especially using newly founded archives materials. Simultaneously I found miscellaneous raw materials in the various archives in Russia.

研究分野：ロシア・ソ連史

キーワード：オソアヴィアヒム　スターリン　国家総動員体制　軍事知識　第二次世界大戦　政治局　軍事社会　ソ連

１．研究開始当初の背景

ソ連はロシア革命直後に内戦、干渉戦争を経験する中で誕生したため、当初から軍事的傾向が社会に刻印されていたことは周知の事実だが、それに続く 1920 年代の新経済政策時代は、比較的自由穏健な時代とみなされている。ところが満洲事変やナチス・ドイツの権力獲得等、国際環境の悪化する 1930 年代になると、老若男女を動員する国家総動員的な体制が構築されていく。国民に対する軍事的知識の啓蒙、教育を担う組織として 1927 年に組織されたのが「オソアヴィアヒム」（直訳すると「国防・航空・化学防衛・化学産業協賛協会」）であった。入隊前の兵士に軍事的教育を施し、それ以外の国民には銃後で前線を支えるよう軍事知識の普及や実践的指導を行っていたこのオソアヴィアヒムもスターリン体制を支える重要な一つの要素であった。ソ連時代には、この組織についてある程度の研究蓄積があった。独ソ戦争におけるソ連の莫大な人的損害について、戦争への備えが不十分だったとの西側の批判に答えたのがそもそもの発端で、社会の軍事化という側面ではドイツと類似した体制を作り上げたにも関わらず、オソアヴィアヒムを侵略に備えた「軍事・愛国主義的」運動として肯定的に捉え、正当化するイデオロギー的研究が特徴であった。しかしソ連崩壊後のロシアではほとんど研究を見かけなくなり、ウラル地方に限定したニコノヴァ（ニコノヴァ『愛国主義者の教育：オソアヴィアヒムとウラル地方における住民の軍事訓練（1927－1941 年）』2010 年、ロシア語）の著作が例外的で、当時のスターリン体制におけるオソアヴアヒムの新たな位置づけは、ロシア国内でもいまだに行われていないのが現状である。

英語圏では、この組織に焦点をあてたオドムの著作（William E.Odom, *The Soviet Volunteers: Modernization and Bureaucracy in a public mass organization*, Princeton Univ., 1973.）がある程度で、ヴォランティア組織として位置づけており、時代的な制約もあってソ連の一次史料をほとんど利用していない。日本では全く先行研究が存在しないといってよい。ソ連崩壊時にはスターリン体制への批判が声高に語られたが、今やロシア国内で最も偉大な歴史上の人物としてスターリン（2017 年の世論調査）がえらばれる時代へと時代は変化した。対独戦勝に果たした体制の解明も求められている。

２．研究の目的

このようにオソアヴィアヒムは、ソ連社会の軍事化の進展を理解するためには不可欠な組織だが、ロシア本国における研究の停滞、我が国においても関心が薄いことを考慮し、まずはソ連時代の先行研究を総括するとともに、ソ連崩壊後に公開された基本的な一次史料を網羅的に収集し、この組織の誕生から独ソ戦開始までの戦間期に焦点をあて、日本では未開拓のこの分野について、スターリン時代のソ連社会を理解するための新たな視点を提供すること、今後研究を進めていくための問題提起的な論文を執筆することが本研究の目的である。特に明らかにしたいのは、オソアヴィアヒムの中央組織の構成、地方組織との関係、スターリンら共産党幹部との関係、各種運動の広がりを、立体的かつ重層的に把握することである。

３．研究の方法

(1) インターネットも活用しながら、先

行研究（図書、学位論文）をリストアップして収集し、これまでの研究を総括する。（2）重要な一次史料としてオソアヴィアヒムの機関誌（『ヴォロシーロフ射撃手』、『守りについて』等）、軍事知識普及のための小冊子、パンフレット等を複写・収集する。赤軍の機関誌『赤い星』、コムソモール（共産主義青年同盟）の機関誌『コムソモーリスカヤ・プラウダ』など、オソアヴィアヒムと関わりの深い新聞から関連記事を抜き出す作業を行う。（3）オソアヴィアヒム関連文書を所蔵する、モスクワの文書館（党、政府、軍）で最も基本的な一次史料を収集し、オソアヴィアヒム指導部の活動に焦点をあてるとともに、スターリンら党指導部や軍との関係も明らかにし、今後の研究を進めていくための課題をある程度把握する。

（1）、（2）の課題については、モスクワのロシア国立図書館（旧レーニン図書館）、ロシア公共歴史図書館等で網羅的に収集すること、（3）については、地方の文書館に足を運ぶ余裕がないので、モスクワの主要な文書館でできる限り、史料収集に努めること、以上が研究方法である。

モスクワの主要な文書館の特徴とそれぞれに保管されている史料をまとめると以下の通りである。**ロシア国立社会政治史文書館**のフォンド 17（党中央委員会）及び、党指導者の各種個人フォンドを探索し、共産党政治局によるオソアヴィアヒム運営を理解する。**ロシア連邦国家文書館**のフォンド 8355（オソアヴィアヒム）、フォンド 5446（政府）で、オソアヴィアヒム指導部の実際の活動を理解する。**ロシア国立軍事文書館**のフォンド 4（国防人民委員部総務局）、フォンド 33987（国防人民委員）で、オソアヴィアヒムと関係の深い軍との関係を理解する。

４．研究成果

ソ連時代の学位論文を始め、基本的な図書、戦間期のパンフレット類は網羅的に収集できた。特に文書館に保管されている一次史料については、ソ連共産党中央委員会政治局で採択された正規軍とは異なる、オソアヴィアヒムを含めた一般的な軍事関係機関に関する決定を 1920 年代から 30 年代にかけて網羅的に収集し、系統的に整理することができた。一方で政府の文書館でもオソアヴィアヒムの活動に関する史料を多数収集することができた。以上を踏まえ、できるだけ早く論文を仕上げること、可能ならば近い将来にモノグラフとして刊行することを計画している。

戦間期にはドイツ、イタリア、日本をはじめ総動員体制構築のために似通った組織、運動が他の諸国にも存在していた。本研究の進展により、これら諸国における事例と比較することが可能となり、ソ連の特殊性だけでなく、同時代の世界状況の普遍性について改めて俯瞰する視点を獲得することが可能となると考えるが、本研究では現時点で、そこまで研究を広げることができていない。一方で、プーチン政権によるクリミア併合後の西側との対立激化により、ますますソ連時代への回帰現象が語られることが多くなったが、青少年教育の一環として日本では想像できない学校での射撃練習の導入などオソアヴィアヒムを彷彿とさせる動きが、現体制下でも見られるなど、本研究は現代ロシアの分析についても役立つと考えている。モノグラフ作成時には、これらの視点も盛り込めるよう努めたい。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 10 件）

① 寺山恭輔「ウズベキスタンにおける日本人抑留・日本人墓地」帯谷知可編『ウズベキスタンを知るための 60 章』明石書店、2018 年、340－343 頁。[査読無]

② 寺山恭輔「1920 年代ソ連の極東政策」『二十世紀研究』第 18 号(2017 年)、25-57 頁。[査読無]

③ 寺山恭輔「1930 年代を中心とするソ連の対モンゴル、新疆政策の類似点と相違点」麻田雅文編『ソ連と東アジアの国際政治 1919－1941』みすず書房、2017 年、165-196 頁。[査読有]

④ 寺山恭輔、上野稔弘「20 世紀前半の極東アジア諸国による交通政策と社会変動」『公益財団法人 JFE21 世紀財団 2015 年度大学研究助成：アジア歴史研究報告書』2016 年、199-217 頁。[査読無]

⑤ 寺山恭輔「日本・アジアから見たスターリン時代のソ連」南塚信吾、秋田茂、高澤紀恵編『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016 年、254-255 頁。[査読有]

⑥ Тэраяма Киосукэ, «Советская политика по развитию сети железных дорог на Дальнем Востоке в 1930-е гг.: военизация, политотделы, строительство вторых путей», С.Папков, К.Тэраяма ед., *Политические и социальные аспекты истории сталинизма. Новые факты и интерпретации*, Москва, РОССПЭН, 2015. с.50-85. [査読無]

⑦ 寺山恭輔「第 24 回近現代東北アジア地域史研究会大会報告」『近現代東北アジア地域史研究会』第 27 号（2015 年）、110－113 頁。[査読無]

〔学会発表〕（計 1 件）

① 寺山恭輔「1920 年代ソ連の対極東政策」『京都大学現代史研究会』（2017 年 7 月）

〔図書〕（計 3 件）

① 寺山恭輔『スターリンとモンゴル 1931－1946』みすず書房、2017 年(600 頁)ISBN978-4-622-08598-0

② 寺山恭輔『スターリンと新疆:1931－1949 年』社会評論社、2015 年(638 頁)。ISBN978-4-7845-1352-9

③ С.Папков, К.Тэраяма ед., *Политические и социальные аспекты истории сталинизма. Новые факты и интерпретации*, Москва, РОССПЭН, 2015. ISBN 978-5-8243-1947-7

〔その他〕

① 寺山恭輔「書評：С.Л.Кузьмин, Ж.Оюунчимэг, Вооружённое восстание в Монголии в 1932 г ., Москва, Издательство МБА, 2015.」『東北アジア研究』第 20 号、2016 年、203-211 頁。[査読無]

② 寺山恭輔「書評 Е.Н.Чернолуцкая, Принудительные миграции на советском Дальнем Востоке в 1920-1950-е гг., Владивосток: Дальнаука. 2011. 512с.」『東北アジア研究』第 19 号（2015 年）、219－226 頁。[査読無]

③ 寺山恭輔「書評 Н.Г.Кулинич, Повседневная культура горожан советского Дальнего Востока в 1920-1930-е годы, Хабаровск: Издательство Тихоокеанского государственного университета, 2010. 375с.」『東北アジア研究』第 19 号（2015 年）、227－237 頁。[査読無]

ホームページ等
http://www.cneas.tohoku.ac.jp/staff/terayama/terayama.htm

６．研究組織
(1)研究代表者
寺山　恭輔（TERAYAMA,Kyosuke）
東北大学・東北アジア研究センター・教授
研究者番号：00284563